

30002	生命倫理 Bioethics	1 年次～ 前期 2 単位			
担当者	中川 明博	履修可能学科	N 必		
		関連資格			
サブタイトル	生と死を操作することの倫理的是非				
授業内容 ・ ねらい	医療技術の急速な発達によって、人間の生と死を人為的にコントロールすることが可能になった。しかしそうした変化は、伝統的な価値観では対処しきれない新たな倫理的問題を引き起こしている。脳死、臓器移植、出生前診断、代理出産、安楽死などをめぐる問題がその代表的なものである。この講義では、新しい医療技術がもたらす生命倫理上の諸問題をいくつかのテーマに即して考察し、それを通じて望ましい生と死のあり方について考えていきたい。				
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> (1)生命倫理とはどのような学問か (2)重度障害新生児の治療停止の是非をめぐって (ジョンズ・ホプキンス・ケース) (3)重度障害新生児の治療停止の是非をめぐって (日本の場合) (4)出生前診断と選択的中絶の倫理的考察 (出生前診断の歴史) (5)出生前診断と選択的中絶の倫理的考察 (優生学の歴史) (6)代理出産の是非をめぐって (代理出産とは) (7)代理出産の是非をめぐって (賛否両論の検討) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> (8)自己決定という論理をめぐって (自己決定という論理) (9)自己決定という論理をめぐって (インフォームド・コンセントについて) (10)安楽死は倫理的に許されるか (安楽死とは) (11)安楽死は倫理的に許されるか (その是非について) (12)脳死は人の死か (脳死をめぐる議論の経過) (13)脳死は人の死か (さまざまな問題点) (14)臓器移植の問題 (死の自己決定について) (15)臓器移植の問題 (諸議論の検討) </td> </tr> </table>			(1)生命倫理とはどのような学問か (2)重度障害新生児の治療停止の是非をめぐって (ジョンズ・ホプキンス・ケース) (3)重度障害新生児の治療停止の是非をめぐって (日本の場合) (4)出生前診断と選択的中絶の倫理的考察 (出生前診断の歴史) (5)出生前診断と選択的中絶の倫理的考察 (優生学の歴史) (6)代理出産の是非をめぐって (代理出産とは) (7)代理出産の是非をめぐって (賛否両論の検討)	(8)自己決定という論理をめぐって (自己決定という論理) (9)自己決定という論理をめぐって (インフォームド・コンセントについて) (10)安楽死は倫理的に許されるか (安楽死とは) (11)安楽死は倫理的に許されるか (その是非について) (12)脳死は人の死か (脳死をめぐる議論の経過) (13)脳死は人の死か (さまざまな問題点) (14)臓器移植の問題 (死の自己決定について) (15)臓器移植の問題 (諸議論の検討)
(1)生命倫理とはどのような学問か (2)重度障害新生児の治療停止の是非をめぐって (ジョンズ・ホプキンス・ケース) (3)重度障害新生児の治療停止の是非をめぐって (日本の場合) (4)出生前診断と選択的中絶の倫理的考察 (出生前診断の歴史) (5)出生前診断と選択的中絶の倫理的考察 (優生学の歴史) (6)代理出産の是非をめぐって (代理出産とは) (7)代理出産の是非をめぐって (賛否両論の検討)	(8)自己決定という論理をめぐって (自己決定という論理) (9)自己決定という論理をめぐって (インフォームド・コンセントについて) (10)安楽死は倫理的に許されるか (安楽死とは) (11)安楽死は倫理的に許されるか (その是非について) (12)脳死は人の死か (脳死をめぐる議論の経過) (13)脳死は人の死か (さまざまな問題点) (14)臓器移植の問題 (死の自己決定について) (15)臓器移植の問題 (諸議論の検討)				
教科書 参考書	教) 香川知晶『命は誰のものか』(ディスカヴァー携書、2009年、1000円)				
評価方法	学期末の試験により評価する。				
事前準備学習 履修条件等	教科書の該当箇所を事前に読んでくること。				